

《原 著》

## $^{99m}\text{Tc}$ -Tetrofosmin を用いた $^{99m}\text{Tc}$ -Pyrophosphate 急性心筋梗塞 シンチグラフィ集積部位診断能の向上

河野 匡哉\*      滝    淳一\*      絹谷 清剛\*      樋口 隆弘\*  
中嶋 憲一\*      宮崎 吉春\*\*      村田 義治\*\*\*      利波 紀久\*

要旨  $^{201}\text{Tl}$  と  $^{99m}\text{Tc}$ -PYP の 2 核種同時収集心筋梗塞シンチグラフィは、緊急時には施行困難である。そこで、 $^{99m}\text{Tc}$ -TF 併用急性心筋梗塞シンチグラフィを考案した。対象は急性心筋梗塞患者 25 例。PYP-planar および SPECT を施行した直後に TF を投与し TF-SPECT を施行した。PYP, TF-両 SPECT を同一の軸を用いて再構成し、両 SPECT の画像を重ねて梗塞部位を同定した (PYP-TF 併用法)。梗塞部位の診断率を PYP-planar のみ, PYP-SPECT のみ, PYP-TF 併用法の 3 方法について、熟練者と非熟練者で診断率を比較した。PYP-TF 併用法は熟練者、非熟練者とも 100% の部位診断率を示し、PYP-planar のみ, PYP-SPECT のみと比較して有意な診断能の向上を認めた。 $^{99m}\text{Tc}$ -TF 併用急性心筋梗塞シンチグラフィは、緊急時検査にも対応できる有効な方法である。

(核医学 38: 707-713, 2001)